

クローズ
アップ

国立国会図書館デジタル コレクションの活用法

牧 明日香

はじめに

① <https://dl.ndl.go.jp/>
(最終閲覧日：2023年5
月31日)。

国立国会図書館デジタルコレクション^①(以下「デジタルコレクション」)は、国立国会図書館(以下「当館」)で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービスです。デジタルコレクションには、当館や他機関がデジタル化した343万点(うちインターネット公開資料58万点)の資料や、電子書籍・電子雑誌148万点(うちインターネット公開資料125万点)等が収録されています(2023年4月時点)。



図1 デジタルコレクショントップ画面

収録資料は、図書、雑誌、博士論文、電子書籍など、多岐にわたります。インターネット環境があれば利用できる資料も多く、授業の補助教材や自学自習にも役立つような資料も数多く収録されています。本稿では、デジタルコレクションの概要と教員や生徒のみなさまにとって便利な使い方についてご紹介します。

1 概要

デジタルコレクションには、図書、雑誌、古典籍資料(貴重書等)、博士論文など、

当館やほかの図書館等が所蔵する資料をデジタル化した資料や、当館が収集したインターネット上の刊行物(電子書籍・電子雑誌など)などを収録しています。文字の資料だけではなく、当館で所蔵するカセットテープやソノシートの音源、国内で製造された初期のレコードの音源のコレクション(「歴史的音源」)、レーザーディスクの映像資料など、音声や映像の資料もご利用いただくことができます。

これらの資料は「ログインなしで閲覧可能」「送信サービスで閲覧可能」「国立国会図書館内限定」の3つの公開範囲で提供しています。このうち、「ログインなしで閲覧可能」の資料はインターネット環境があれば、どなたでも、どこからでも利用できます。生徒自身がパソコンやタブレット等で検索・閲覧することも可能です。

また、2022年5月からは、絶版等の理由で入手が困難な資料を国内であれば、ご自宅や職場等、どこからでもパソコン等で閲覧できる「個人向けデジタル化資料送信サービス」^②(以下「個人送信」)を開始しました。本サービスは、当館の利用者登録(満18歳以上が要件)をすることで利用できます。本サービスにより、登録利用者がインターネット環境で閲覧できる資料が大幅に増加しました。

公開範囲ごとの資料点数は表1の通りです(2023年4月時点)。

表1 デジタルコレクションの公開資料

公開範囲 ^{*1}	対象資料	収録点数	閲覧できる場所、方法
ログインなしで閲覧可能	著作権など権利状況に問題がないことが確認できたもの	約184万件	インターネットを利用できる場所
送信サービスで閲覧可能	インターネット公開していない資料のうち、絶版などの理由で入手が困難な資料	約184万件	国立国会図書館内、図書館向けデジタル化資料送信サービス ^{*2} に参加している図書館で同サービスにログイン、またはインターネットを利用できる場所で「個人向けデジタル化資料送信サービス」にログイン
国立国会図書館内限定	上記に当てはまらない資料	約134万件	国立国会図書館内

*1 なお、収録資料の著作権および著作隣接権は、それぞれ各資料の著作権者および著作隣接権者に帰属しています。著作権の保護期間が満了していない画像は、著作権法の範囲内でご利用いただくか、著作権者から許諾を得るなど著作権処理をおこなってご利用ください。

*2 https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/index.html (最終閲覧日：2023年5月31日)。

^②https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html (最終閲覧日：2023年5月31日)。

2 利用方法

〈検索する〉

デジタルコレクションでは、書名や著者名、キーワードなど文字で検索する方法と、画像で検索する方法とがあります。

① キーワードで調べる

キーワードを検索窓に入力する簡易検索と、タイトルや著者、出版社など、より詳細な条件を指定して検索する詳細検索があります。また、トップ画面のコレクション(図書や雑誌、古典籍など)のアイコンを選択して、特定のコレクションにしぼって検索をすることもできます。

デジタルコレクションの便利な検索機能の1つが「全文検索」です。全文検索とは、図書や雑誌のタイトル・目次だけでなく、本文・挿絵のキャプションなどに含まれる文字も検索できる機能です。これにより、1ページずつ目を通して探さなくとも、

本文に含まれる文字で資料を検索できるため、予想外の資料をみつけられる可能性が高くなりました。従来は一部の資料のみ、約5万点を全文検索の対象としていましたが、2022年12月のデジタルコレクションリニューアル③のタイミングで、全文検索ができる資料数が大幅に増加しました。2023年4月現在、収録資料の約7割に当たる図書・雑誌等約247万点の資料が全文検索の対象です④。

一例として、キーワード「徳川家康」で検索をしてみましょう。全文検索を使用しなければヒットする資料は2,788件であるのに対し、全文検索を使用すると142,522件もの資料が検索結果一覧に表示されます(2023年4月時点の検索結果)。資料の種類でも、図書では1,872件だった検索結果が77,933件に、雑誌は871件から61,639件へと大幅に増加していることがわかります。『多摩川と多摩丘陵』といった地域の資料や『図説日本庶民生活史』『自治産業発達誌』など、多岐にわたる分野の資料が検索結果として表示されます。

検索結果一覧には、数字と、検索したキーワード「徳川家康」を含む箇所抜粋の一覧が表示されます(スニペット表示)⑤。数字は該当箇所のコマ番号で、これを押すと直接キーワードが含まれている該当の画像に遷移し、閲覧が可能な資料であれば、そのまま閲覧することができます。

③ https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/_icsFiles/afiedfile/2022/12/21/pr221221_01_1.pdf (最終閲覧日: 2023年5月31日)。

④ <https://dl.ndl.go.jp/ja/fulltext-search> (最終閲覧日: 2023年5月31日)。

⑤ 検索結果一覧画面では1資料あたり最大10箇所までスニペット表示します。10箇所以上該当箇所がある場合で、すべての箇所を表示する場合は、後述の閲覧画面の全文検索タブをご利用ください。

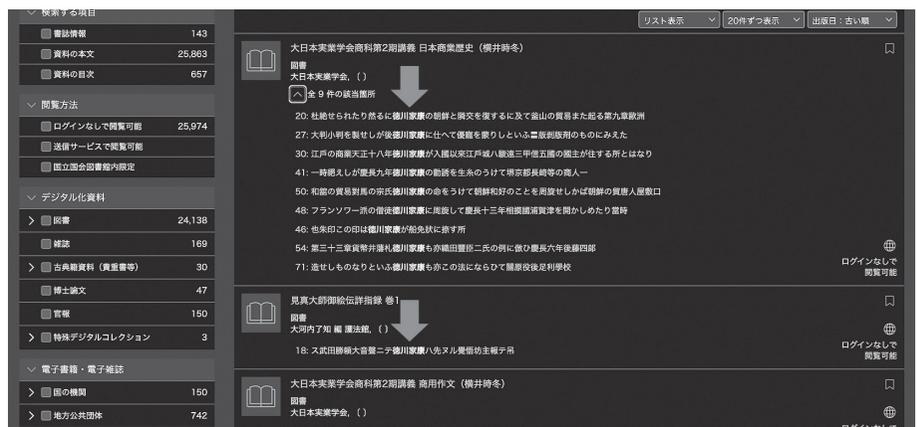


図2 「徳川家康」で全文検索した結果の例 矢印のように、コマ番号とキーワードを含む箇所が表示される。

なお、本文画像をインターネットで公開していない資料であっても、全文検索や、タイトルや目次など、書誌情報の検索機能はお使いいただけます。特定のキーワードを含む資料を探したい時、特定の著者の作品を調べたい時などにも検索機能をご活用ください。

②画像で調べる

お手持ちの任意の画像などをもとに、それらに類似する図版(図・挿絵・写真等)を検索できます。

トップページの画像検索欄にお手持ちの画像を貼り付けるか、ウェブ上の画像のURLを入力することで、インターネット公開(保護期間満了)の図書・古典籍約35万点のなかから、類似している画像(図・挿絵・写真等)を検索できます。この画像検索も2022年12月のリニューアルで追加された機能です。

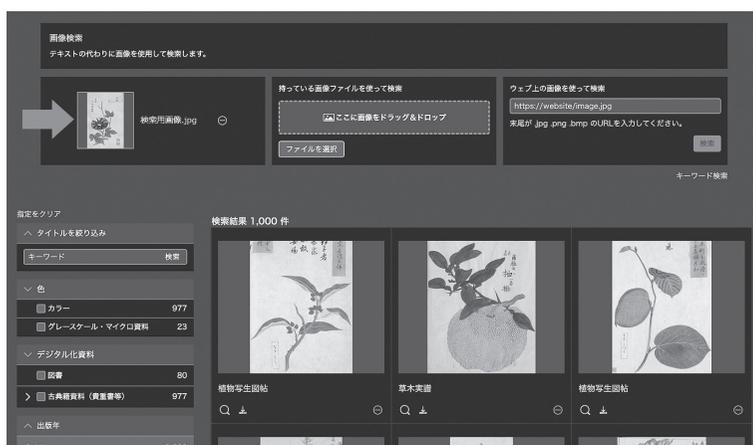


図3 矢印で示している手元の画像を使って画像検索をした例

〈閲覧する〉

検索結果で表示される資料のタイトルをクリックすると閲覧画面に移ります。閲覧画面には資料の画像が表示され、その右側には、コンテンツ、目次、画像調整、全文検索のタブがあります。画像の下には著者や出版年など、書誌情報等が表示されます。資料の画像は拡大・縮小ができます。全画面表示に切りかえると、書誌情報やコンテンツのタブが消え、画面いっぱいに画像を表示させて閲覧することもできます。利用しやすいかたちで資料をご覧ください。

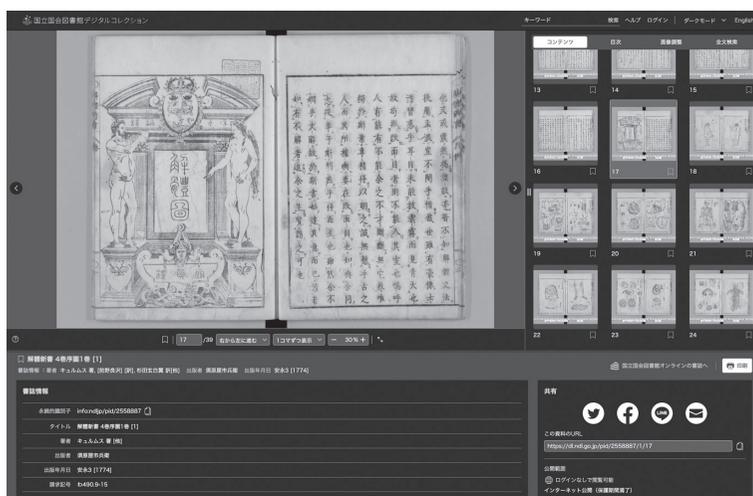


図4 閲覧画面の例 『解體新書 4巻序圖1巻 [1]』 (<https://dl.ndl.go.jp/pid/2558887/1/17>) (最終閲覧日：2023年5月31日)

コンテンツタブには資料の全コマのサムネイル画像が一覧表示され、資料全体を概観してみたいページのあたりをつける際に便利です。目次タブでは、大部な資料でも、資料の構成を確認し、必要な箇所に合わせて閲覧ができます。画像調整タブでは、画像の色調を調整したり、角度を変更したりできるほか、閲覧中の画像の一部を選択して、デジタルコレクションのなかから、その部分と類似している画像を検索することもできます。

全文検索タブは、閲覧中の資料に含まれる文字を検索できる機能です。キーワードを入力して検索すると、ヒットした箇所がすべて列挙されます。表示されたコマ番号を押すと、当該画像へ遷移します。

印刷も可能です。「ログインなしで閲覧可能」の資料だけではなく、送信サービスにログインすると、「送信サービスで閲覧可能」の資料も印刷できます⑥。

⑥「ログインなしで閲覧可能」の資料にはダウンロードボタン、「送信サービスで閲覧可能」の資料には印刷ボタンが表示されます。なお、一部対象外の資料もあります。

⑦<https://dl.ndl.go.jp/ja/tool>（最終閲覧日：2023年5月31日）。

⑧<https://dl.ndl.go.jp/figures>（最終閲覧日：2023年5月31日）。

⑨https://rekion.dndl.go.jp/ja/rekion_guide1（最終閲覧日：2023年5月31日）。

⑩https://dl.ndl.go.jp/local_history（最終閲覧日：2023年5月31日）。

⑪<https://dl.ndl.go.jp/best>（最終閲覧日：2023年5月31日）。

⑫https://www.ndl.go.jp/jp/d_exhibitions/index.html（最終閲覧日：2023年5月31日）。

3 利活用に便利なページ

デジタルコレクションでは、特定のテーマごとに資料を簡便に検索・閲覧できるよう、「便利ツール」⑦のページを公開しています。授業や学習に活かせるようなテーマとして、たとえばつぎのようなページがあります。

・「近代日本人の著作・音源(出身都道府県ごと)」⑧

近代日本人の著作、関係文書、音源等を、出身都道府県ごとに一覧しています。

・「れきおん 著名人の演説・講演」⑨

近代の政治家・軍人・実業家・学者等約50名の演説や講演の音源を調べることができます。

・「地域の歴史に関する資料(都道府県ごと)」⑩

都道府県別に各地の歴史に関する資料を検索できます。

・「よりすぐり国立国会図書館」⑪

当館の古典籍資料、憲政資料等のなかから、代表的なものを選定して収録しています。

また、デジタルコレクションからは離れますが、当館では、テーマごとに資料を紹介し、解説やコラムを加えて紹介する「電子展示会」⑫を作成しています。政治家・実業家・芸術家等の肖像写真を紹介する「近代日本人の肖像」、近現代の日本の代表的な政治史料を紹介する「史料にみる日本の近代」、日仏の150年にわたる交流の歴史をたどる「近代日本とフランス」など、多種多様なコンテンツがあります。参考資料としてもご活用ください。

おわりに

当館ではデジタル資料の拡充に力を入れています。直近では、2023年の2月上旬から3月下旬にかけて、令和3(2021)年度補正予算でデジタル化した図書約30万点をデジタルコレクションで公開するなど、収録資料は増大しています。デジタル化はおおむね古い年代の資料から実施してきましたが、取組が進み、収録している国内刊行図書には出版年が新しいものも増えてきました。本稿でご紹介した通り、2022年には個人送信サービスの開始やデジタルコレクションのリニューアルにより利便性も向上しました。今後も発展していくデジタルコレクションを教育の場でご活用いただければ幸いです。

(まき・あすか/国立国会図書館関西館電子図書館課)